

研究ノート

粘性土を多く含む除去土壌減容化のための 分級処理の改善と課題

三浦 一彦^{1*}、間宮 尚¹、辻本 宏¹、河野 麻衣子²、日下 英史³

【要約】 放射性物質により汚染され、除染により除去された除去土壌1300万m³を減容化し再生利用に用いる方法として、分級処理が用いられることとされている。しかし、分級処理が求められている放射能レベルの除去土壌は、農地由来の粘性土が80%以上を占めており、その約半分が再生利用されない篩下側に分けられる問題がある。これに対して分級点を20 μmまで下げることで再生利用可能土を増やせる可能性があるが、同時に、農地由来土特有の有機団粒、薬剤の無効消費といった課題や、分級後濃縮物への有機物の混入、粒度が細かい土粒子の脱水、中間貯蔵施設に運ぶための異物除去を目的として投入される土壌改質材のもたらす悪影響などの課題への対応が必要となることを示した。

キーワード：除去土壌、分級処理、腐植質、有機団粒、解泥

2020年7月22日受付 2020年12月8日受理 (第8回研究発表会座長推薦論文)

*Corresponding author: miurakaz@kajima.com

¹鹿島建設株式会社環境本部(〒107-8348 東京都港区赤坂 6-5-11)

²鹿島建設株式会社技術研究所(〒182-0036 東京都調布市飛田給 2-19-1)

³京都大学エネルギー科学研究科(〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町)

